むなかた

令和五年　霜月　七五四号

目次

秋季大祭　3・2
神宝館特別展ギャラリートーク　4
造営日記　4
宗像みあれ芸術祭二〇二三　5
神宝館だより・みこころ　6
宗像大社歌会詠草　7
御造営奉賛者御芳名　7

よって！　世界で最も解決が難しい紛争といわれているパレスチナ問題▼イスラエルの首都であるエルサレムはユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地となっている。それぞれ崇拝する神は同じらしいがユダヤ教にとっては祖先が約三千年前に建国したヘブライ王国の都であり神殿があった場所。キリスト教にとってはゴルゴダの丘でユダヤ人にイエスが十字架刑に処された場所。イスラム教にとっては西暦六九一年に岩のドームと呼ばれるモスクを建設したことに由来しメッカやメディナに次ぐ聖地と位置付けられた場所。このような背景をもつ為この地を巡る争いは妥協が成立しにくく一旦和平の方向へ向いたとしても反対派が過激な行動に出て反発するということが幾度となく繰り返されてきた▼長い歴史で積み重ねられた問題は、他国の人間が簡単に口を出していい問題ではなく、それぞれがお互いを認めることは難しいかもしれないが、それでも武力行使という最悪の手段ではなく解決の糸口を探ってほしいと思う。（久）

中津宮

御神燈

秋季大祭

十月一日～三日

本年は例年通りに全ての祭典行事が執り行われた。秋晴れの好天に恵まれ、境内は多くの参拝者で連日賑わいをみせた。一日の「みあれ祭」では、二隻の御座船と約百二十隻もの漁船が船団を組み、大島港から神湊港まで勇壮な海上絵巻を繰り広げた。到着後、駐輦祭を斎行。祭典後、輦台を御座車に奉安し玄海コミュニティセンターまで御神幸した。沖津宮・中津宮の輦台は、宗像市消防団員を始め多数の奉仕員に担がれ、玄海中学校・玄海小学校・玄海東小学校の児童も神幸の御列に加わり、辺津宮第一鳥居までの道のりを御神幸した。第一鳥居からは、氏子青年会の奉仕により輦台が拝殿にご到着されると、御神璽が神職により本殿内へ奉安され、入御祭が斎行された。

二日の午前八時、神門前にて流鏑馬神事が奉納された。午前十一時、例祭を多くの参列者のもと厳粛に斎行した。福岡県神社庁宗像支部の神職が奉幣を行い、宮地嶽神社献幣使、また氏子会を代表して松本肇氏（河東地区）が氏子奉幣使を務め、主基地方風俗舞が奉奏された。祭典後、神賑行事として喜多流による翁舞が奉納された。

三日は午前十時より、高宮、第二宮・第三宮、宗像護国神社にて、それぞれ秋季大祭を斎行。午前十一時より総社祭を本殿にて斎行し、地元中学校女子生徒による浦安舞が奉納された。午後二時には、南坊流菅原宗尚氏による献茶祭が行われ、同六時からは秋季大祭を締め括る高宮神奈備祭が斎行され、三日間にわたる秋季大祭が執り修められた。

神宝館特別展
「国宝と現代の名匠三右衛門」ギャラリートーク

十月一日より開催中の神宝館特別展。この度、有田焼の十四代今泉今右衛門、十五代酒井田柿右衛門、唐津焼の十四代中里太郎右衛門の当代の先生方が展示作品の生解説を行います。時代を超えた国宝と匠の共演。秘められた技、洗練された美をかつてないスケールで体感できる特別展。展示作品に込められた想いや新たな見方を発見できる機会となります。是非、お申し込みください。

●日　時　令和五年十月二十一日(土)十四時
　十四代中里太郎右衛門 ※終了しました
　令和六年一月七日(日)十三時三十分
　十四代今泉今右衛門
　令和六年一月二十一日(日)十四時
　十五代酒井田柿右衛門
●場　所　宗像大社神宝館
●定　員　各日先着二十名
●参 加 費　無料(但し別途、神宝館拝観料が必要です)
●申し込み　九時から十七時まで電話にて
　申し込みください。
　(〇九四〇―六二―一三一一)

時満ちて道ひらく 造営日記 56

休憩所完成後も工事が続いていた、庭園が内山緑地建設の施工により秋季大祭にあわせ九月三十日に完成した。

休憩所「むなかた茶愉」は四月に開館以降、多くの参拝者を受け入れ、皆様の良き休み処となっている。花や実をつける樹木や紅葉で四季を感じられる庭園を眺めながら宗像大社の玄関口として、さらに心安らぐ場所となれば幸いである。

宗像みあれ芸術祭二〇二三「いのちを結ぶ」アートの祭典

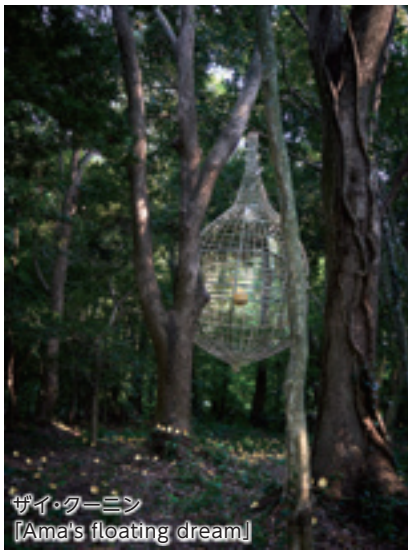
十月一日より十五日間、境内および、一部屋内を現代アートで彩る「宗像みあれ芸術祭」が開催された。

本芸術祭は「子どもたちに誇れる海と生きる宗像」を標語に、海や森とともに「いのちを結ぶ」循環の状態【常若（とこわか）】をアートという手法で表現する文化活動のひとつである。

期間中、境内の森、参道、祈願殿や休憩所に、絵画・彫刻・音楽などを展示し、親子で参加できるワークショップやコンサートなども同時開催。神の島「沖ノ島」から出土した八万点に及ぶ国宝や、宗像三女神を中心とした自然信仰をもとに、新進気鋭の現代アーティストたちが新しい表現に挑戦し、会場を彩った。神社という拠り所で、祈る心や祭りの賑わいとともに、心の豊かさを育むきっかけとなり、参加者の交流が育まれた。

作家は、地元出身の画家のほか、全国から公募で集まった音楽家や彫刻家、さらにシンガポールからも参加。鐘崎漁港の漁師や海女とともにつくった大型の作品が境内の森に登場し、参拝者に宗像の歴史文化を表現したほか、大島の海洋ゴミからつくった彫刻作品はゴミの問題と向き合うきっかけづくりになった。アート作品を通して、はるか昔から現代までの時間を巡らせ、未来の在り方を描くきっかけとなった。

本芸術祭は、実力のあるアーティストや地域、企業など幅広い世界の方々からの支援と協力を得ながら、子供たちの成長とともに、毎年続けることで芸術祭そのものを醸成させ、次世代にバトンをつないでいきたい。来年もご参拝とともにご鑑賞ください。


ザイ・クーニン
『Ama's floating dream』

石原稔久×iima『鈴道』

戸室太一『千の空、千の海、千の歴史』

中林丈治『見えるかたち、見えないかたち～abstract dusts～』

神宝館だより 79
八万点ノ国宝収蔵

占部貞保書状
宗像社と人々（五）

古文書はある戦の状況や神事の様相等、公的な出来事を現在に伝える一方で、日々の暮らしの様子も教えてくれる。写真の史料は「占部貞保書状」。ここに宗像社にまつわる人々の日常の一端が垣間見える。占部貞保は宗像氏貞の家臣。数々の戦で活躍し、以前この欄で取り上げた大島の警固にも許斐氏鏡等と共に当たった。

書状の内容は年末近くの日付にふさわしく、慌ただしい様子である。貞保は相手の訪問時に家を不在にしており、しかもそれが二度続いたことを詫び、年貢米の納入に手間取っていて、年内に受けられるはずだった用事も受けられないほど多忙な状況であること等を伝えている。

入れ違いになった相手は豊福秀賀。豊福家は宗像社の僧官の最上位である学頭を務めた家である。この書状への返状では貞保の状況に理解を示し「御内儀さま（他人の妻への尊称）ともよく相談して、心静かに新年をお迎えください」と結んでいる。家族の話題と時候の挨拶と、現代の手紙と似たような構成である。噛み合わない面会の予定、年末の忙しさ。現代にもよくある光景で、ひとの暮らしは昔も今も変わらないように思えてくる。（津）

みこころ

秋風に木々が揺れ寒さの深まる夜が続きますが、季節の移ろいを感じます▼十月には三日間にわたる秋季大祭が無事に終了いたしました。一日は日曜日ということもあり、露店の広がる境内は昨年よりも多くの参拝者で賑わいを見せました。私は昨年直接見る事の叶わなかった陸上神幸を遠くからですが見ることができ、御神輿によって運ばれてくる二女神の姿に神秘的な気持ちに包まれました。三日には高宮祭場にて行われる高宮神奈備祭での悠久舞もとても良い場所で観覧させて頂き、荘厳な先輩方の姿に自ずと身が引き締まりました。お参りに来て下さった皆様にとっても良き三日間となっていれば幸いです▼さて、今月一日から二十二日までは西日本菊花大会が行われます。七五三の時期と重なり、お祝い子様の着物と多くの菊花が相まり境内は華やかに彩られます。菊花は境内にて販売も行われますので、ご家庭にて花を愛で楽しまれるのもよいかと思います。ご参拝頂いた際は是非ご散策くださいませ。（一）

第747回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切（順不同）

彩りにシャインマスカット母に供え楽園気分も今年で最後　本田エリナ

物価が急に上がってしまったこの秋、この先は貧乏生活になりそうと言う作者。〈物価高に楽園気分ももう最後シャインマスカット母に供える〉としてみた。

NHK高校講座「世界史」は和寇につづき壬申倭乱　山﨑　公俊

世界史で倭寇を学んだら、次には秀吉の朝鮮征伐が壬申倭乱として出てきたのだ。視点を変えて見た日本の歴史に作者は少し驚いているのかもしれない。

ミュンヘンのビールまつりは十月に大樽開けて酔いしれる市民（オクトバーフェステ）（たみ）　秋吉　嘉範

ミュンヘンで市民がビールを飲む祭の様が想像できる歌。結句まで一続きの詠み方だが〈～はオクトバーフェスタ〉と三句切れにするとリズムが良くなる

妹が母親になり子を抱きて私が叔母になれた秋の日　堺　玲子

叔母になった喜びが結句の〈なれた〉に表れている。妹、妹の子、私、叔母と出てくるが関係がすっきり分かりやすく詠まれているのが良い。

妻の実家刈りしばかりの稲田より藁のにほひが芬芬（ふんぷん）とせり　佐々木和彦

藁の匂いに季節の実感が出ている。言葉の順序を変えて〈稲田より刈りしばかりの藁の香が芬々とせり妻の実家は〉としてみては。

年金受給削減案に激怒していた　元教員の義兄も風に　早川　祥三

義兄への挽歌。歌から義兄の人柄や立場が分かる。字余りが多く散文的なので整理して三句〈激怒せし〉結句〈義兄風になる〉としてみては。

かすみ草ダリヤ撫子置かれたる花の種類であなたとわかる　吉﨑美沙子

韻律がとても良い。留守中の訪問客の残した花の種類でだれが置いて行ったのかが作者には分かるのだ。結句の「あなた」に親しさが籠っている。

コロナあけ貴女に捧ぐ盆踊り揃い浴衣が形見となりぬ　東　雅子

「貴女」と詠まれた方の初盆だとのこと。この歌ではそちらがコロナ開けよりも重要なので初句〈初盆の〉四句以降を〈形見となりし揃い浴衣で〉としたい。

◆選者詠

身の内にちひさな森をつくりませうレタス、モリンガ、ブロッコリー食べ

この年ももうぢき終りと咲きはじむ庭のツワブキ勝手に殖えて

第717回　俳句

夏休み白水ダムのしぶき浴ぶ　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名

（令和五年九月）（順不同・敬称略）

一〇、〇〇〇円
大阪市　谷口商事㈱
さいたま市　齊藤　嘉大
滝沢市　熊谷真奈美

六、〇〇〇円
筑紫野市　伊藤　友香

五、五〇〇円
大野城市　大庭秀太郎

五、〇〇〇円
芦屋市　中野　宗彦
射水市　藤井　泰紀
鎌倉市　森　加奈子
川辺郡　曽我部　淳
合志市　松林　雅嗣
盛岡市　木村　友乃

三、〇〇〇円
糸島市　國分　一美

二、〇〇〇円
大田区　吉永あずさ

お知らせ　第五十三回 西日本菊花大会

境内には約一、五〇〇鉢の菊花が展示されており、宗像の秋を感じる事が出来ます。展示されている菊花は、宗像大社菊花会会員の方々が精一杯この日の為に育てた菊花でございます。この時期でしか見られない宗像大社。是非、ご覧下さい。

●会　期：十一月一日～二十二日
●時　間：九時～十七時
●場　所：宗像大社辺津宮

むなかた
霜月（しもつき） 第754号

11月 まつりごよみ

1日	総社月次祭	午前11時
	引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	
	宗像護国神社祭	
3日	明治祭	午前11時
15日	総社月次祭併七五三祭	午前11時
	引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	
23日	新嘗祭	午前11時

宗像大社

編集後記

先日、ある研修会での出来事である。次のような文を紹介された▼広報とは「組織や個人が、目的達成や課題解決のために、多様なステークホルダーとの双方向コミュニケーションによって、社会的に望ましい関係を構築・維持する経営機能である」▼これは令和三年、日本広報学会が「新たな広報概念の定義」プロジェクトを立ち上げ約二年間をかけて「広報」の定義を発表したものである▼私の中で広報といえば、取材対応や会報誌編集などのイメージが大半を占めていた▼多様な社会の中で、変化する価値観に対応することが求められる中で自分が広報担当者として経営機能の一部として存在できているのか。急に、広報のイメージを覆され、大きな宿題を与えられた気がした。（黒）

2023年11月1日発行(月刊)／宗像大社 〒811―3505 福岡県宗像市田島2331 電話(0940)62―1311(代) https://www.munakata-taisha.or.jp/